

「ゲルマン人の移動」

中世ヨーロッパ史はじまりが、（ ）の移動。
 4世紀後半にアジア系の（ ）が西に移動し、影響を受けてゲルマン人はヨーロッパ中を大移動。

その過程で（ ）は滅亡。



ゲルマン人の諸民族の中で、フランク人の建てた（ ）が最も力を持つ。

フランク王国は（ ）の（ ）がメロヴィング朝を建国。
 彼はキリスト教の正統派である（ ）に改宗し、支配民族からの支持を得ようとした。

メロヴィング家の王家の相続方法は、子どもへの（ ）だったため、子どもの数が増えるごとに王の領地は小さくなり、衰え、代わりに（ ）という最高の行政職が権力を握り始めた。

宮宰の中で有名な（ ）は、メロヴィング朝の実権を握り、イベリア半島からフランク王国にまでやってきたイスラーム勢力を（ ）で撃破。

カール＝マルテルの子（ ）は、メロヴィング朝から権力を奪い、（ ）を開いた。

ピピンの子、（ ）は、800年ローマ教皇（ ）より、西ローマの冠を貰い（＝ ））、フランク王国は新しい西ローマ帝国として認められた。

カールの死後、（ ）、（ ）より、王国を（ ）、（ ）、（ ）の3つに分割。

東フランク王国は、（ ）がアジア系の（ ）を撃破し、名声を高め、ローマ教皇より西ローマ皇帝の位と冠が与えられた。

この後、東フランク王国は（ ）と言われるようになる。

西フランク王国は、（ ）が（ ）を開く。

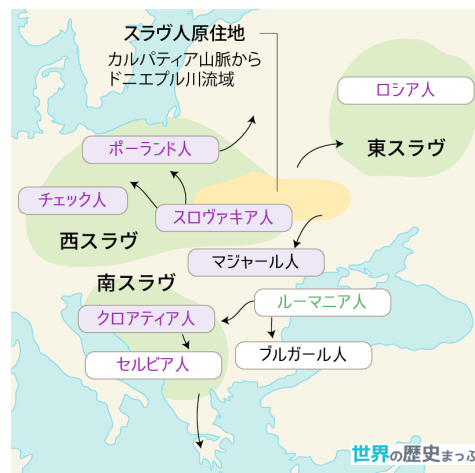
イタリアは、カロリング家はすぐに断絶し、ジェノヴァ、ヴェネツィア、ピサなどの地方都市が主役の（ ）になる。

「ノルマン人・スラヴ人の移動」

中世ヨーロッパでのゲルマン人の次の民族移動がノルマン人の移動。



ノルマン人は西ヨーロッパを中心に移動し、続くスラヴ人は東ヨーロッパを中心に移動。



紫文字 スラヴ系 → スラヴ人の移住
 黒文字 アジア系 ○ カトリック
 緑文字 ラテン系 ○ ギリシア正教

「ビザンツ帝国」

ゲルマン人大移動で西ローマは崩壊したが、東ローマ（ ）は繁栄した。

ビザンツ帝国最盛期の皇帝は、（ ）。

ゲルマン人国家である北アフリカの（ ）やイタリアの（ ）を滅ぼす。

ローマ帝国の正式な継承国家として（ ）を編纂。

ビザンツ帝国はイスラーム勢力の影響を受けて、勢力は衰退。

その結果、11世紀にはイスラーム勢力を打倒するための（ ）が結成される。

最後は（ ）により滅亡。

「キリスト教の分裂」

ローマ帝国が東西に分裂する中、キリスト教も、西側の（ ）と東側の（ ）とに分かれて、抗争開始。

「カトリック教会の発展」

ローマ＝カトリック教会は、フランク王国や神聖ローマ帝国を「西ローマ帝国」として見立て保護を得ていた。また農奴から（ ）を取り立てて経済力をつけていた。

しかし、絶大な権威を持ったカトリック教会は、お金で聖職者の地位を売るなど腐敗と墮落が進み、ローマ教皇（ ）は聖職売買を禁止し、聖職者の任命権（ ）は教会のみとした。

これに対し、神聖ローマ皇帝の（ ）は帝国内の影響力低下を懸念し、教皇と（ ）を引き起こす。結果は、皇帝のキリスト教会からの破門となり、困った皇帝は教皇に赦しを貰いに謝罪した。（ ）

この事件より王よりもローマ教皇の権威の絶大さを再認識するようになる。

「封建社会の成立」

中世ヨーロッパでは封建社会が成立し、「多様性」を生み出した。

（ ）を重視する日本の封建社会とは違い、ヨーロッパの封建社会は（ ）であり、同時に複数の君主と契約する事が出来た。
→違う領土の王にも同時に使える事が出来たため、ヨーロッパ社会は多様性を生み出した。